

501) エスカレーター

これは地下鉄銀座駅のエスカレーターで起きた事件であります。その日私はさるお得意先に行く途中のことでした。くたびれた格好をしてぼんやりとエスカレーターのベルトにもたれかかって上に向かっていました。ちょうどラッシュアワーが一段落した午前11時頃のこと、銀座の駅とて人はほとんどなく、どこかのんびりとした空気が漂っていました。ところが下の方からエスカレーターを階段がわりに、せっせと上ってきた大柄の男が、私の5～6段ばかり上の段にいる女性の2～3段下あたりまで辿り着くと、急に立ち止まって、何と彼女のスカートの中に手を入れようとしているではありませんか。私ははっとして、「オイ！止めなさい」と言おうと思って、その男の後ろ姿を見ると、どこかで見た風体なのであります。そう、これから行く得意先のすぐそばで、いっぱい飲み屋をやっているマスターではありませんか。私ははっとして生唾を飲み込んだ瞬間、エレベーターは頂上にさしかかり、マスターと彼女の距離感と高さのバランスが変わり、結局未遂に終わったのであります。彼女はもちろん自分の後ろで何が起こっていたかなど知る由もありません。ましてやマスターのおカミさんなんぞは、亭主が地下鉄の駅でそんな悪さをしていることなど知る由もありません。知ってるのはオイラばかりなり。しかし武士の情けでこの一件は今も心の中にとどめているのであります。